

ご意見	対応
● ジョン万次郎の高知での生活は14歳までのため、大河ドラマの構成上、最初の2～3話で高知のシーンが終わってしまうのではないかと懸念がある。1シーンでも長く、そして主演の山崎賢人さんの高知ロケを誘致できるかが高知県PRの鍵となる。 ● 大河ドラマを見た方が県内各地を周遊していただけるよう、全県型で取り組むことが重要である。現存の施設でも、関連する企画展などが開催されるのではないかと考えている。「らんまん」の時に観光客が増えたのは、誘客の核となる施設が機能していたからである。各地域の関連施設を整備し、深く掘り下げていく必要がある。 ● 「ごめんなはり線」沿線も含め、高知県には「らんまん」「あんぱん」両方の観光を目的とした観光ツアーによる鉄道利用が多い。ここに「ジョン万」が加わるので、これを生かさない手はない。資料上では1層目から3層目への線が細いと感じる。「アニメ」「花」「歴史」「国際交流」という強いコンテンツで、新たな知恵出しを一緒に考えていきたい。 ● 会場まで迷わずに行けるよう標識の整備が重要。特に土佐清水市は遠方であるため、空港や駅からの交通手段の利便性を高めることが重要だと思う。 ● 「ジョン万」という言葉がNHKエンタープライズによって商標登録されていると聞いている。各事業者が円滑にPR活動や商品開発を展開できるよう、高知県とNHKの間で包括的な利用許諾や手続きの簡素化に関する手配を要望したい。	● 高知県がジョン万次郎のふるさとであることに加え、ジョン万次郎と同じ時代を生きた幕末期の高知の偉人やゆかりの地もあわせてPRしていくことで、歴史観光に興味を持つ層への訴求を図り、誘客につなげていく。 ● 大河ドラマを契機とした観光振興策を検討している市町村に対して、アドバイザーを派遣し、それぞれの地域の実情に応じた伴走型の支援に取り組む。さらに、補助制度を創設し、市町村によるジョン万次郎ゆかりの地や歴史文化施設等の受入環境整備をはじめ、観光消費額の拡大につながる取り組みを支援することを検討している。 ● 3層構造が博覧会の肝であり、誘客した方をしっかりと周遊・長期滞在につなげることが重要と考えている。これまで磨き上げてきた観光コンテンツを活用し、施策を充実させていく。 ● 県内各地に設置している広域観光看板の見直しや、高知方面からの特急列車とスムーズに接続する周遊観光バス「しまんと・あしずり号」の増便などを検討している。 ● 8月6日に市町村、観光協会を対象とした、権利関係の説明会をNHK高知放送局に開催していただいた。今後も県が総合的な窓口となり、問合せがあれば随時対応するとともに、適宜市町村や民間事業者向け説明会の開催など、この機会に民間事業者の商品開発などが進むよう、NHKとの協議を進めていく。